

第4回 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度検討会議

議事要旨

1. 日 時 2020年2月4日(火) 10:00～12:00

2. 場 所 中央合同庁舎8号館 416会議室

3. 出席者 敬称略

座長	永田 恭介	筑波大学長、一般社団法人国立大学協会長
副座長	安宅 和人	ヤフー株式会社 CSO、慶應義塾大学環境情報学部教授
	安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会顧問、AI戦略実行会議座長
	五十嵐 悠紀	明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科専任准教授
	岡本 和夫	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構顧問
	北野 宏明	一般社団法人日本経済団体連合会イノベーション委員会AI活用戦略TF主査、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所代表取締役社長、AI戦略実行会議構成員
	草野 隆史	株式会社ブレインパッド代表取締役社長、一般社団法人データサイエンティスト協会代表理事、一般社団法人日本ディープラーニング協会理事
	小谷 元子	総合科学技術・イノベーション会議議員、東北大学高等研究機構長、東北大学材料科学高等研究所教授 兼 大学院理学研究科数学専攻教授
	杉山 将	理化学研究所 革新知能統合研究センター長、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
	竹村 彰通	滋賀大学データサイエンス学部長
	椿 広計	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所長
	長谷山 美紀	北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター長
	村田 治	関西学院大学長
	山中 竹春	横浜市立大学医学部臨床統計学主任教授・データサイエンス推進センター長
	ルゾンカ 典子	ソニー銀行株式会社執行役員

有識者

孝忠 大輔 日本電気株式会社 A I 人材育成センター センター長

オブザーバー

小池 雅行 独立行政法人情報処理推進機構 I T 人材育成センター企画部長

4. 議題

- (1) 第3回検討会議での主なご意見等について
- (2) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)について
- (3) 今後の予定

5. 資料

資料 1 数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム(素案)

参考資料 1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度検討会議(第 3 回)議事要旨
(案)

6. 議事要旨

- (1) 第 3 回検討会議の主なご意見等について

冒頭、永田座長の挨拶の後、事務局より第 3 回検討会議でのご意見等について参考資料 1 に基づき説明があった。

- (2) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)について

日本電気株式会社孝忠氏(モデルカリキュラム(リテラシーレベル)の全国展開に関する特別委員会 委員)より、資料 1 に基づき、検討中のリテラシーレベルのモデルカリキュラム素案についてご発表があり、意見交換がなされた。

事務局より、第 4 回検討会議でのご意見等をふまえ修正した数理・データサイエンス・AI の優れた教育プログラムについての基本的考え方、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI 教育に係る認定制度の設計に関する論点等を提示し、認定の考え方や認定対象、認定制度運用等について議論が行われた。

(以下は、その中での意見の例)

Ⅰ 全ての大学・高専生がリテラシーレベルの教育を受けられる状況を達成するには、一定の

基準による認定の上で、さらに優れた教育プログラムを認めていくという 2 段階の認定もあるのではないか。

- Ⅰ 本来的には全員受講（全学必修）が望ましいが、必修化には手続き上の困難があるという理解である。全員にオープンであることを必須とし、全学必修に向けての工程を示すことを求めているかどうか。
- Ⅰ 認定後に教育プログラムが硬直化せず、不断の改善がなされるべきであり、教育プログラムの自己点検・評価体制を整備して改善していくことを求めているかどうか。

（ 3 ）今後の予定

事務局より今後の予定について説明があった。

以上